



水道産業新聞社
 大阪本社 電話(06)6373-3603
 FAX(06)6373-3633
 〒531-0072 大阪市北区豊崎2-7-9
 東京本社 電話(03)6435-7644
 FAX(03)3438-0025
 〒106-0003 東京都港区西新橋3-5-2

TAISEI KIKO
75th
 ANNIVERSARY

1941-2016
 大成機工は
 創業75周年を迎えました。

大成機工株式会社
 本社/大阪市北区梅田1丁目1番3
 www.taiseikiko.com

水道・下水道
水の総合専門紙
 日本専門新聞協会加盟
 水道産業新聞ホームページ
 http://www.suidou.co.jp

BIDAS H 実施技術を決定

国交省 実規模実証4件、予備調査8件

国土交通省下水道部は5日、今年度実施する下水道革新的技術実証事業(BIDAS H)プロジェクトを発表した。実規模実証は、「中小規模処理場を対象とした下水汚泥の有効利用技術」と「ダウンサイジング可能な水処理技術」をテーマに4件実施する。

「中小規模」は7件。月島機械、サンエコーサーマル、日本下水道事業団(JIS)、鹿沼市農業公社、鹿沼市の共同研究体が「脱水乾燥システムによる下水汚泥の肥料化、燃料化技術実証事業」を行う。具体的には、脱水機と乾燥機の一体型システムで乾燥汚泥を製造し、肥料化、燃料化など有効利用への適応性や、設備の性能、ライフサイクルコスト削減などを実証する。また、大川原製作所、関西電力、秦野市の共同研究体が「自己熱再生型ヒートポンプ式高効率下水汚泥乾燥技術実証事業」を行う。「ダウン」も2件。三機工業、東北大学、香川高等専門学校、高知工業高等専門学校、JIS、須崎市の共同研究体が「DHSシステムを用いた水量変動追従型水処理技術実証事業」を行うほか、IHI環境エンジニアリング、帝人、JIS、辰野町の共同研究体が「特殊繊維担体を用いた余剰汚泥削減型水処理技

術実証事業」を行う。さらに、実規模実証の前段階として、導入効果などを含めた普及可能性の検討や技術性能などを確認する予備調査は、下水道熱を利用した車道融雪技術「災害時に適した処理・消毒技術」消化工程なしで下水道資源から水素を製造する技術「をテーマに8件実施する。

予備調査の技術(実施者)は次の通り。
 ▼下水熱を利用した車道融雪技術の実用化に関する調査事業(東亜クラウト工業、十日町市)▼下水熱および車道融雪の特性を考慮した下水熱利

用融雪技術に関する調査事業(興和、積水化学工業、新潟市)▼下水熱蓄熱融雪システムの開発に関する調査事業(総合整備コンサルタント、大日本アラスチックス、中央復建コンサルタンツ、テインプレックスジャパン、北海道大学、大阪市立大学、旭州市)▼不織布フィルターと限外ろ過膜による未処理水の除菌システムの開発に関する調査事業(王子ホールディングス、王子エンジニアリング、クラレアクア)

▼下水汚泥の熱分解高純度水素製造プロセス技術研究開発に関する調査事業(オストランド、iPL、成蹊大学、産業技術総合研究所)▼下水処理水と海水の塩分濃度差を利用した水素製造システムの実用化に関する調査事業(山口大学、正興電気製作所、JIS)▼下水汚泥から水素を直接製造する技術に関する調査事業(東北六、カーボンフリーネットワーク、大和三光製作所、弘前市)▼下水処理水を利用した水素発電による下水道維持管理コスト削減に関する調査事業(清水建設、積水化学工業、パワージュナイテッド、大阪狭山市、軽井沢町、小林市)